

令和 7 年 1 月現在



総合案内

来庁者への庁舎・窓口案内に対応する総合案内。記載台を横に配置し、申請書記入への誘導を促す。



窓口カウンター 1階には、下肢空間の広い車椅子用ローカウンター・来庁者のプライバシーに配慮したセグメントパネルを配置。上部に透過性アクリル板を採用することで、カウンターラインの圧迫感を軽減。



待合椅子 窓口利用者に合わせ、肘なし・肘付などの配置。張り材は耐アルコール・耐次亜塩素酸ナトリウム仕様を採用し、メンテナンス性に配慮。

プロジェクトの詳細

開庁	: 令和7年1月14日
人口	: 約22,100人
対象人員	: 350人
延べ床面積	: 6,154.70㎡
建物概要	: 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上4階
委託業務	: 三好市新庁舎オフィス 環境整備支援業務



オカムラHPでも
ご覧いただけます

三好市は、四国のほぼ中央に位置し、「祖谷のかずら橋」などの観光名所を有する、風光明媚な地方都市です。三好市本庁舎は築50年が経過し、施設や設備の老朽化、耐震性能の不足に加え、市民サービスの面では、合併後の庁舎分散による利便性の低下など、さまざまな課題を抱えていました。これらの課題を解消するための庁舎整備が進められ、令和7年1月に三好市新庁舎が開庁しました。

新庁舎は、十分な耐震・耐火性能を備え、災害時にも業務を継続できる設備を整えたことで、市民の生命と財産を守る防災拠点としての役割を担っています。また、合併後に分散していた「産業観光部」「建設部」「教育委員会部局」のほか、環境福祉部のうち、「環境課」「地域福祉課」「みよし地域包括支援センター」を新庁舎へ集約し、利便性を大幅に向上させました。さらに、市民の利用頻度が高い「市民課」や「税務課」などを1階に配置することで、アクセス性を高めています。庁舎内は4層吹き抜け構造を採用し、市民にとって利用しやすい空間設計としています。また、自然光をふんだんに取り入れるとともに、市産材を活用して木質化を施したことで、心地よく温かみのある空間を実現しています。吹き抜けを通じてつながる空間は、市民が集い、活動し、賑わいを感じられる場となっています。

職員の執務スペースは、課ごとの仕切りをなくしたオープンフロアを採用し、ユニバーサルレイアウトでデスクを配置しました。これにより、将来的な組織変更や業務内容の変化にも柔軟に対応できる準備が整えられています。この新たな環境を最大限に活用し、職員全員が一丸となって、より効率的で質の高い行政運営を目指しています。



キッズスペース

利用者の多い1階フロアに配置し、お子様連れの来庁者が待合時間を快適に過ごせるよう配慮。



大会議室

大空間を可動式パネルで仕切り分割利用が可能。通常の会議利用だけでなく、期日前投票や確定申告会場、災害時対応拠点など、多目的な利用を想定。



4階ラウンジ

吹き抜け階段に隣接配置しており、議会傍聴時の利用だけでなく、市民の憩いのスペースとしても活用。



執務室

部門毎の仕切りをなくしたオープンフロア・一般職席にはユニバーサルレイアウトを採用することで、組織変更などの対応が可能。



執務室

異動時には、個人の荷物とワゴンを移動するのみとし、レイアウト変更などのランニングコスト削減に繋げる。



役職者席

W1500D700の両袖机、可動肘付チェア(全職員共通)で構成。



一般職席

一人当たりW1200D700の机上面にA4ワゴン1台、可動肘付チェア(全職員共通)で構成。



応接室

吹き抜けガラスに面することで、自然採光を取り入れ木質化した心地よい空間を構築。打ち合わせ可能なテーブルタイプの応接会議を採用。



議員控室

会派毎に利用できるよう、フレキシブルに移動できる応接テーブル・椅子を配置。



議会図書室

吹き抜けガラスに面することで、自然採光を取り入れ開放的な空間となり、限られた居室スペースの圧迫感を軽減。



委員会室

効率的な運営できるよう、マイクやモニターなどの設備を備えた委員会室。



市長室

打ち合わせ可能なテーブルタイプの応接会議を採用し、迅速な意思決定に繋げる。